

2009 年度『ブロック共同宣教司牧推進の歩み』の報告書

「ブロック・小教区での部会制の現状と課題について」

ブロック名: 滋賀湖東ブロック

提出期限2010年2月28日

提出日

2010 年 3 月 12 日

2009年度の「ブロック共同宣教司牧の歩み」の報告書は、昨年に引き続き、「部会制」について、報告してください。「部会制」について、①2009年の各教会の部会の実態、②ブロックが抱える部会制の課題、③部会制が定着するため工夫。④「ブロックの部会」(たとえば、ブロックの典礼部会など)あれば、その活動についても触れてください。

① 2009年の各教会の部会の実態

共通 5 部(典礼・教育・施設・広報・財務)はもちろんの事、その他の部(墓地部・厚生部・事務部・国際協力部・ボランティアグループ)に於いても活動は非常に活発である。特に昨年春以降、国際協力部が彦根教会・長浜教会の多大な協力を得て、派遣切りにあった外国人労働者の生活支援・就労支援で活動を行っている。彦根で2月に結成されたNGOセスタ・バジカに教会も加わり、東京のセカンドハーベストジャパンとも提携して、毎月食糧支援を行った。湖東ブロックでは、ブラジル人家庭、フィリピン人家庭合計50世帯分の配分を受け、各家庭に届けた。草津、彦根さらに湖西ブロックの信者達の物資・資金援助も相当額あった。

教育部会は、現在の家庭状況、学校の教育態勢に問題があり、加えて少子化のため、日曜学校、侍者キャンプ、中高生合宿などに参加する人数は少ない。彦根では母親達が毎日曜ミサ後に幼少の子供達に信仰教育をしている。第3日曜のミサは子供ミサとし、子供用のミサ式文・聖歌を使い、朗読、共同祈願も子供達がやっている。積極的にミサにあずかる態度が養われている。典礼部、宣教広報部も活動し役割を果たしている。

② ブロックが抱える部会制の課題

各部が独自に行う行事に対しては、各部ともすごく熱心であるし、信者達も協力的である。しかし、ブロックが行う行事に対しては、無関心とは言わないまでも、あまり協力的でない面も見られる。小教区の垣根を越えられない部があることが課題と思う。また「共同宣教司牧」の中での「部」という意識が低いように思う。どこかの部会に属するよう毎年氏名の登録をしてもらっているが、全員を動かす部会活動を計画・実施しにくい。

③ 部会制が定着するため工夫

教会の仕事の原動力は「信仰」です。部会制が定着するためには、あらゆる機会を利用した大人のための信仰教育によって「一人一役」を推し進めるしかないと思います。

大人の信仰がしっかりしていれば、その背中を見ている子どもたちにも良い信仰教育になると思います。現実には、一番大切なことは「救霊」であることを忘れ、世俗主義・経済至上主義に陥っている者もいます。非常に難しいことですが価値観の変革が必要ではないかと思います。

広報宣教活動部は、司祭による信仰講座・聖書講座が開かれているが、参加者は少ない。入門講座もあり、常に数名の出席者がある。広報部会が呼びかけているが、平日時間がある人は少ない。(彦根)

④ 「ブロックの部会」

滋賀湖東ブロックには「ブロックの部会」はありません。理由の一つには物理的に困難な要因、つまりお互いの距離がはなれすぎていることが挙げられる。この障碍をどう乗り越えてブロックの部会・相互交流を立ち上げるかが今後の課題と思います。